龍の仕事展を活用した人材育成プログラム

D-Internship2024

岡山県 No.1 インターンシップ・プログラム

本プログラムは事前・事後の自己学習を含み、講義・演習・実習の総合計で全 50 日間（260 時間）の研修となっています。

事前研修≫企業研修≫中間研修≫直前研修≫PDCA実践（龍の仕事展）≫成果発表≫事後研修≫最終成果発表 のプログラムを通して

社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養います。

吉備再発見
Discovery KIBI

後援：倉敷市　主催：D-Internship 実行委員会

高梁川流域の企業文化
龍の仕事展 2024
Dragon's Work Exhibition
共催：龍之仕事展実行委員会

D-Internship2024 募集要綱

D-Internship とは

D-Internship とは「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシップ・プログラムです。（D-Internship の「D」とは「龍の仕事展」の「龍 =Dragon」の「D」です）

大学生に、地元を代表する企業を知ってもらい、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、コミュニケーションのスキルを磨いたり、地域戦略の思考を学んだり、社会人基礎力を身につけます。

始まりは、2012 年。文部科学省「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」にあります。中国・四国地域の 18 の大学が３年間かけて、地元の企業と協力して、大学生に求めるべきインターンシップの内容を協議・実践・研究しました。その事業の研究成果は、中国・四国地域の企業は中小企業が多く、その企業が大学生に求めるものは、「自己啓発力」と「自己教育力」であるというものでした。それを受け、2014 年から岡山を代表するインターンシップ・プログラムの開発を目指し、企画・実施・運営をしてきました。

このプログラムは全体で、6 月～ 12 月の半年かけて取り組む、８つの研修・実践・発表から成ります。【事前研修】>>【企業研修】>>【中間研修】>>【直前研修】>>【ＰＤＣＡ実践】>>【成果発表】>>【事後研修】>>【最終成果発表】のプログラムです。現在は自己学習を含み、標準で 38 日間 (183.5 時間)、そして、事後研修を受けて、最終成果発表まで進むと講義・演習・実習の総合計で全 50 日間 (260 時間) の研修となっています。大学によって参加した学生には２単位～３単位を出していますが、最後まで進むと４単位取れてもおかしくはない内容となっています。

龍 とは

「龍」とは高梁川のことです。古代、高梁川は「吉備のくに」の中核として多くの文化・産業を生み出し、人やものを運び、多くの地域をつなげました。高梁川は時代によってその呼び名を、川島川から川辺川、松山川などと変えてきました。地域名を持つ河川の名前ではなく、流域にあまたの恵みを与えた母なる川として「龍」と呼び、広域連携の旗印 (シビックプライド) として、イベントの名前にしています。

高梁川流域連盟趣意書を受けて、同じ水で生かされている備中エリアの人々が、広くつながり、協力しあうことで、共に生きる地域のくくりを捉え直し、新たなパラダイムシフトの再生と創出を目指しています。

「龍」というシビックプライドを掲げ、私たちが「龍の末裔」として、この地を愛し、さらに豊かに生きたいと願うことで、この流域に暮らす人々が生涯に渡って誇り高く、心豊かな生活を営むために必要な生活具を残し、伝え、また生み出していくことに結びつき、固有のライフスタイルを実現していくことをコンセプトとしています。母なる川の恵みを受け、この地で「モノ」を生み出すことを「なりわい」とする「龍の末裔」の仕事を集めた展示が「龍の仕事展」なのです。

龍の仕事展 とは

龍の仕事展とは、毎年９月に倉敷アイビースクエア内のアイビー学館を会場として高梁川流域のものづくり企業、約 30 社が企業文化の展示を行い、商品の PR や販売を行うものです。2010 年の国民文化祭から毎年開催され、今年で 15 回目を迎えます。県内で最も観光客を集める倉敷美観地区へは、全国から、また海外からも大勢の来訪者が訪れます。昨年までの実績で「龍の仕事展」は、8, 000 人～ 20, 300 人を越えるお客様を迎えています。

出展する企業は、高梁川流域を代表する、創業 100 年以上の歴史を持つ老舗企業から、新たに地域ブランドを立ち上げ、次世代へと受け継げるものを生み出す努力を続ける企業達です。

ものづくりに関わる企業は、その発生・発展・開発商品が地域特有の気候・風土・文化に大きく影響を受けて派生しています。すなわち、土着の企業の生き残るための工夫こそが、地域と密接に結びつく固有文化を形成するものなのです。

そして、地方にこそ都市のブランドが切り捨てた「歴史」や「文化」が強く残っています。資本も人材も弱い地方が、都市部と戦略的に差別化できる重要な切り口として、その強みをブランド力として再認識すべきなのです。昨今の海外市場に対しても、日本が次に輸出すべき「商品」の１つには、他国が真似できない「日本文化」(クールジャパン) という切り口が期待され、「文化」は重要な価値になっています。

企業文化の展示である「龍の仕事展」は、「製品」を売らんがための展示・即売ではなく、しっかりと企業文化に焦点を当てた展示を行い、「商品」のＰＲ、販売を行います。参加企業は龍の仕事展を通して、自らの足元を掘り下げ、見落としていた自社「製品」の付加価値を再認識し、地域ブランドと呼べる「商品」としての価値を捉え直すことができます。

また、全国から大勢の観光客が訪れる倉敷美観地区の中核施設である倉敷アイビースクエアを会場に行うことは、地域のファンが集まる場所で地域ブランドをＰＲできます。さらに、全国各地の人々に対し、開発中の商品や新商品のテストマーケティングを行うことも可能で、これは活用次第で十分のコンベンション機能を有しているといえます。加えて、来訪者と地域住民には、特産品や企業を通して広く地域の歴史や風土、文化を学ぶことのできるという意味では、広域学習観光を促進するものです。

そして、龍の仕事展に関わる学生たちには、誇りを持って活躍する地域の中小企業を認知することとなり、新たな就業機会や定住の促進にもつながる可能性を持つものです。

龍の仕事展 は PDCA実践

「龍の仕事展」はD-Internship のプログラムでは【ＰＤＣＡ実践】に当たります。学生たちが最も自信をつける研修です。それは、事前研修、企業研修で学んだことを実践することができるからです。【ＰＤＣＡ実践】までに学生たちは新入社員研修さながらの事前研修・中間研修・直前研修を受けます。「キャリアをどうとらえるか」「目的と目標」「当事者意識」「傾聴」「マナーコミュニケーション」「客観力」「報連相」「ＰＤＣＡ」「ファシリテーション」「伝わる伝え方」「マーケティングミックス」「地域戦略」などの内容です。

それを用いて９日間、ＰＤＣＡサイクルを回しながら企業から任された課題に挑戦します。研修で学んだことをＰＤＣＡを用いて学生たちが実践する龍の仕事展では、その成果が、売上や客単価などの定量的な結果として現れてきます。その成果は日々学生たちに伝えられていきます。自らが取り組んだ結果、現れる成果を数字として実感できるので学生たちは、定性的な成果としてではなく、それを確実に反省や自信に変えることができるのです。

大学生に向けて

私たちが目指すインターンシップ・プログラムは、就職活動で優位に立つのための目先のテクニックや形だけのビジネス・マナーを教えるものではありません。

高校までは勉強、大学からは学問を始めなければなりません。高校までは先生が勉強を教えてくれましたが、大学からは自ら学ぶことになります。当然、学びは就職が最終地点ではなく、社会に出てからも一生勉強です。社会人は各々が自己実現に向け、自分に何が足りなく、その為には何を学ぶべきかを考え、自らを高めています。そういう能力を「自己啓発力」「自己教育力」と言います。言われたことだけをやるアルバイトではなかなか身につきにくい部分です。

地方の多くの企業が大学生に求めるスキルは、大学で学ぶ専門知識以上に、この「自己啓発力」や「自己教育力」を求めていることが明らかになってきました。しかしながら、これは自分で問題を見つけ、真理を求め、新しい価値を創りだす学問であり、一種の「哲学」でもあり、先輩の社会人も生涯求め続ける終わりのないテーマでもあります。

では、その力はどうすれば身につけられるのでしょうか？ その答えの一つに「客観性を身につけること」が新人の社会人に求められます。人は思春期以降、自我の確立（自分とは何か）を求め、自分を掘り下げて行きます。しかしながらその行為は主観的なものの見方に偏ります。自分を客観視し、自分に本当に何が足りないかに気づくには、他人との関わりが重要となるのです。その為にも伝わるコミュニケーション・他者に寄り添えるコミュニケーションが重要になります。他人との関わりの中で、他者を理解し、他者を通して自分を知るということを繰り返し、真の「自己啓発力」や「自己教育力」を少しずつ身につけていくことができるのです。

社会とは何か？ 地域とは？ 組織とは？ 集団とは？ 会社とは？ 仕事とは？ 家庭とは？ 友人とは？ 自分とは？ 他者とのつながりや関係性を知り、それを通して自分を知る。それが社会を知るということです。社会人への入り口は「自己啓発」「学問」「哲学」の始まりからです。

龍の仕事展を活用した人材育成プログラムとは

D-Internship の目的は大学生に「自己啓発力」と「自己教育力」を芽生えさせることです。それは地元企業が専門性以上に大学生に求めているものだからです。

またそれは、高校までの「学習」と大学から取り組むべきの「学問」のスタイルの違いとその必要性に気づき、過ごすことが大学生活では最も重要だからです。

そして、今の時代、社会人になる前に学び身につけるべき視点が３つあります。「客観的な視点」「持続可能な視点」「マ―ケティングの視点」の３つです。なぜならそれは時代が若者にくれた武器だからです。３つの視点はそれを手に入れやすい時代が育ててくれた素養をすでに持っているのです。

「客観的な視点」は、ビジネスシーンでより高い成果を上げるために必要なスキルです。多様性を受け入れ、共に生きる社会に育った若者たちは、他者を通して自分を知り、他者を受容・承認し、他者と協力して物事に取り組み、自分にない価値観や世界観から対象を見ることができます。つまり、相手が欲しがるものを供給できる社会人になれます。

「持続可能な視点」は、ビジネスシーンで忘れがちなアフターフォローや消費社会からの脱却に必要なスキルです。すでに破綻した高度成長経済の中で環境問題を突きつけられて育った若者たちは、やりっぱなしから「振り返り」「気づき」の学びを身につけてきました。ＰＤＣＡサイクルを身につけて、目標を目指して目的を手に入れる生き方を行うことで自己実現を可能とし、次世代の商品を生み出す可能性を秘めています。

「マ―ケティングの視点」は、ビジネスシーンでは既にマーケティング戦略は必用不可欠です。モノがあふれた時代に生きてきた若者たちは、自分に必要なものを取捨選択する購買行動を身につけています。いいモノが売れるわけではないことに容易に気づくことで、世の中の現象に興味、関心、好奇心を持ち、マーケティングを学ぶことで世の中の仕組みに気づくようになれます。そうすればマーケティング戦略の視点・思考で対象に取り組み、より高い成果を上げることができるようになります。

さらに、若者に期待するキーワードに「地域貢献」が上げられます。若者たちの地元志向が高まる中、「地域」が職場と家庭や友人といった、単に慣れ親しんだ環境の中で小ぢんまりとした自己実現の場に留まるのでは、とてももったいないです。「龍の仕事展」という素材は、自らのアイデンティティを育てた地域の価値に気づき、地域の発展と共に自己実現を目指す地域貢献へ広げ高めることへのきっかけを、本プログラムを通して学生たちと一緒に考えていくことができます。

多くの企業が地域戦略を持つとともに、地域と連携してその社会的存在意義を実現しています。つまり、地域を深く理解することは、どのような仕事に就いても求められるスキルです。また、社会人として自らが暮らす地域、自らが営みをおくる地域を仕事を通して理解することは、多くの社会人が生涯に渡って取り組むテーマの１つでもあります。

「龍の仕事展」に関わり、企業文化を知ることで、地域特有の気候・風土・歴史・文化・社会構造まで関連づけて理解する手法を学ぶことができます。また、地域を深く掘り下げて理解することで、自らの原点を育んだ地域を深く知り、競合他社との差別化をすることで、新たなビジネスチャンスを提案する機会が見えてきます。

低迷する地方経済では、見落とされている既に存在する様々な価値を結びつけ直し、再構築することで新たな価値を生み、小さな経済を数多く回すという生き残り戦略も、地域活性化という視点では重要となっています。

その様な視点や価値観を持つことができる人を育てる人材育成プログラムとして、企業文化に焦点をあてた地域文化の展示「龍の仕事展」をD-Internship は地域の大学と連携して活用しています。

D-Internship2024 PROGRAMS

このプログラムは、【事前研修】≫【企業研修】≫【中間研修】≫【直前研修】≫【ＰＤＣＡ実践（龍の仕事展）】≫【成果発表】≫【事後研修】≫【最終成果発表】の８つのプログラムから成ります。

募集期間　2024/5/07 TUE - 6/10 MON　HP上から各自本人が申し込み

公式 HP ならびに本要綱を熟知し、すべての条件を了承してお申し込みください。《追加募集は行いません。お早目にお申込みください》

事前研修Ⅰ【必須】　2024/6/16 SUN　9:00-17:30　5コマ分　会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

事前研修Ⅱ【必須】　2024/6/23 SUN　9:00-17:30　5コマ分　会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

事前研修Ⅲ【必須】　2024/6/30 SUN　9:00-17:30　5コマ分　会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

龍の仕事展を通して地域貢献のあり方を学び、キャリアのとらえ方、インターンシップへ参加する意義と心構えを再認識すると共に、企業訪問をするために必要なマナー・コミュニケーションの基礎を身につけます。　■ 事前研修はアクティブラーニングを含む講座形式：3日 (7.5h×3)15 コマ

企業マッチング　2024/6/30 SUN - 7/03 WED　事務局･講師３名にて

《専門性・希望担当企業や事前研修の評価により講師がマッチングを行います。　事務局の業務です。（学生は参加しません）》

企業研修　【必須】　2024/7/05 FRI - 8/30 FRI　各自がアポをとり企業へ訪問し研修

３回以上、企業へ訪問し、企業と協働で以下のことに取り組みます。期間は約２ヶ月程ですが、求められる内容に左右されますので早めに企業へ訪問しましょう。販売促進ツールの作成や展示の準備など、デザインやプロダクトの制作にスキルがなくても事務局が支援します。素案は８月上旬までに。

①企業の歴史・理念・商品を理解。
②企業が考える龍の仕事展での目的・目標・課題の共有。
③企業へ課題実現の施策を提案。
④龍の仕事展展示の準備・設営・撤収。

■ 企業研修の準備 (worksheet の作成)：１日 (6h)
＋ ■ 企業研修：(企業での研修3日 (3h×3)
　　＋与えられた課題の対応2日 (6h×2)
＋ ■ 搬入会場設営・搬出会場撤去：(6h×2)
■ 企業研修は実習形式で total：33h

中間研修　【必須】　2024/7/28 SUN　10:00-17:00　会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

【補講】　2024/8/04 SUN　10:00-17:00　会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

企業や事務局に対しての「報・連・相」の徹底。企業研修の進捗状況を学生同士で話し合い、情報を共有。他者の取り組みを参考に、自分が取り組んでいる施策・達成目標の見直しやブラシュアップを行います。　■中間研修は 6h＋ 前後で各自 worksheet を作成・修正：所要時間 2 日 (6h×2)

直前研修　【必須】　2024/8/25 SUN　10:00-17:00　会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

「龍の仕事展」における最終確認。自ら取り組む施策･達成目標を学生同士で話し合い、情報を共有。自分の担当ブースだけでなく、会場全体の取り組みを理解し、互いの連携し支援しあえる土壌をつくります。　■直前研修は 6h＋ 前後で各自 worksheet を作成・修正：所要時間 2 日 (6h×2)

PDCA実践【必須】　2024/8/31 SAT - 9/08 SUN　9日間の内7日間 9:00-18:00　会場：倉敷アイビースクエア

企業の顔として、龍の仕事展の企業ブースを任されます。朝・夕のミーティングを通して目標、対策、反省、改善案など発表し、毎日ＰＤＣＡサイクルを回すことで目標達成を目指します。さらには会場全体へ目を向けることで協働の相乗効果を実践・体感します。　■PDCA 実践 total：56h:7日 (8h×7)

成果発表　【必須】　2024/9/29 SAT　10:00-17:00 4コマ分　会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

インターンシップ・プログラムの全体を通して、何に気づき、何を学び、何を得たかを振り返ります。更に、今後の人生にどう活かすかを考えます。

■ 成果発表の準備：2日 (6h×2) ＋■ 成果発表：１日 (6h)

事後研修Ⅰ【選択】	2024/11/10 SUN	9:00-17:30	5コマ分	会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室
事後研修Ⅱ【選択】	2024/11/17 SUN	9:00-17:30	5コマ分	会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室
事後研修Ⅲ【選択】	2024/11/24 SUN	9:00-17:30	5コマ分	会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

インターンシップの成果発表原稿を持ち寄って研修を受けます。インターンシップを通して本当に得たもの何かを深掘りし、伝わる伝え方を学び、５分間のプレゼンテ―ション技術を身につけます。

■事後研修はアクティブラーニングを含む講座形式：3日 (7.5h×3)15 コマ

最終成果発表【選択】	2024/12/15 SUN	10:00-17:00	4コマ分	会場：吉備国際大学 岡山キャンパス 講義室

一般公開の成果発表会です。５分の持ち時間で成果を発表します。

■成果発表の準備：2日 (6h×2) ＋■成果発表：1日 (6h)

評価・修了証発行	2025/2月　事務局･講師３名にて

《インターンシップ・プログラムの全体を通して講師が評価を行い次のプログラムを受講できる学生の代表を決めます。事務局の業務です》

本プログラムは事前･事後の自己学習を含み、講義･演習･実習の総合計で全 50 日間 (260 時間) の研修となっています。

研修でのルール 特記事項

■全ての研修参加において以下の項目を厳守してください。守れていない場合は参加をお断りします。

①参加者は全員 2000 円を事務局に支払い、テキストを購入してください。

②グランドルール (①相手に届く声で ②時間を守る ③場に貢献する) を守って参加してください。

③研修中のプライバシーに関する個人の発言内容を研修外でむやみに口外しないこと。

④研修に参加している相手を尊重してコミュニケーションをする。

⑤素直な気持ちで取り組む。

D-Internship2024 注意事項

■各講習会：交通費の支給はありません。服装は普段着で構いませんが、清潔感のある好感のもてる服装でご参加ください。（評価対象となります）

■企業研修：交通費の支給はありません。服装は普段着で構いませんが、清潔感のある好感のもてる服装でご参加ください。（評価対象となります）

■ＰＤＣＡ実践・龍の仕事展：

① 交通費の支給はありません。

② 会場は季節柄、暑いので軽装で OK です。服装は普段着で構いませんが、清潔感のある好感のもてる服装でご参加ください。（評価対象となります）

③ 会場の床は石ですのでつまづきにくい靴が望ましいです。

④ 企業の方々と名刺の交換の場面もあります。各自名刺をご用意ください。

⑤ 毎日、出勤簿へ捺印してもらいます。毎日、印鑑をお持ちください。

⑥ 成果発表の時に簡単なアンケートとレポートを提出していただきます。

⑦ 急なことで欠勤・遅刻する場合は、事前に必ず久保田・浅越・森田へ報告してください。

⑧ 各自が担当するブースで必要と思われるものは企業担当者に相談の上ご用意ください。判断できないものは、久保田に相談してください。

⑨ トラブルが起きた場合、不審者を見かけた場合、久保田・浅越・森田へ報告してください。

⑩ 万一に備え、申込フォームで血液型を選択してください。

⑪ スタッフ用のネームカードを用意します。会場では首からかけて使用してください。

⑫ 携帯電話に「龍の仕事展　久保田」で 090-7502-6177 を登録してください。

⑬ 携帯電話で PC からのメールを拒否している方は、botta@project-g7.com を許可してください。

⑭ D-Internship の参加者は活動記録を含めて写真を撮らせていただきます。撮影した写真は HP やブログ、facebook に掲載されます。

⑮ 責任体制：各大学が用意するインターンシップ保険に参加者負担で必ず加入してください。

■受講停止：参加学生の行動が本研修プログラムの進行に著しく支障をきたすと講師３名が全員一致で判断した場合、その学生の本インターンシップの参加・活動をプログラムの途中でもお断りすることがあります。

Message

■D-Internship 実行委員からの推薦文

■質の高いインターンシップとは

インターンシップにはいろいろな定義がありますが、就業体験を行う点が共通して重視されています。学生たちが就業体験を積み、社会に出て働くということがどういうことなのか、さまざまな気付きを与えてくれるのがインターンシップの効果であると言えます。

しかし、最近では「ワンデーインターンシップ」が広く普及し、学生側に就業体験を求めるのではなく、会社見学や企業説明会による就職・採用活動となるケースが多くなってきています。そこで、今求められているのが、産学協働による人材育成の観点に基づいた、教育活動としての質の高い長期インターンシップです。

D-Internship は、まさにこの条件を兼ね備えています。すなわち、(1) 地域（高梁川流域）のものづくり企業と学生が協働するインターンシップであること、(2) 学生の職業意識や就業力を高める教育的効果の高い人材育成プログラムであること、(3) 地域課題の解決に向けて、6 月の事前研修に始まり 12 月の最終成果発表会までの長期にわたるインターンシップであることの 3 条件をすべて充たしています。

D-Internship には、倉敷芸術科学大学からも継続的に多くの学生が参加しています。担当する企業を事前に訪問して、企業理念、経営方針、企業文化、展示ブースでの役割を学び、企業が用意する研修プログラムを受講。それぞれの課題や目標を設定して製品の説明と販売に臨みました。

前原敬太さん（経営情報学科）は、「笑顔での接客を心がけ、販売目標額を達成するために、どのように工夫すればよいのかを実践的に学ぶことができました」と話していました。販売の厳しさと喜びの一端を学び、将来設計やキャリア形成に対する意識が一層高まったとのことです。このように、多くの教育的な意義を有する質の高いD-Internship の益々の発展充実を強く願っています。

倉敷芸術科学大学 名誉教授　小山悦司

■社会人になる大きなステップ

吉備国際大学外国語学部では、2年生のインターンシップの科目で、D-Internship に学生が参加しています。一言でいうと「学生が変わる」。このプログラムに参加する前と参加の後では大きな変化があります。お辞儀の仕方、話し方（音量、明瞭性など）、姿勢などが見違えるぐらい向上します。これは担当教員としての「驚き」であります。

このプログラムの強みは、龍の仕事展で、学生が高梁川流域にある担当企業の「社員」となり、商品を売って社会人としての技能、技術、姿勢を実践的に学ぶことです。学生たちは、決められたスペースに、どのように商品を配置し売るのかを企業と共に考えます。そして、龍の仕事展開催中は、毎日、売上げ目標が示され、作戦を練らなければなりません。しかし、「思うようには売れない」どうするのか…、学生たちは毎日考えます。それまで企業研修で企業の方々と一緒になり企画し、準備した計画を、龍の仕事展の実情（天候・入れ込み状況・周辺のブースとの連携など）に合わせて、企業の担当者と相談しながら変更していきます。また、任された責任から、在庫管理などを学んでいきます。そして、毎日、Plan-Do-Check-Action のＰＤＣＡサイクルを回す様に指導されます。ビジネスの真剣勝負を学生は経験させてもらえる、このような実践的なことを大学で教えることは不可能です。だからこそ、このプログラムはすごいのです。

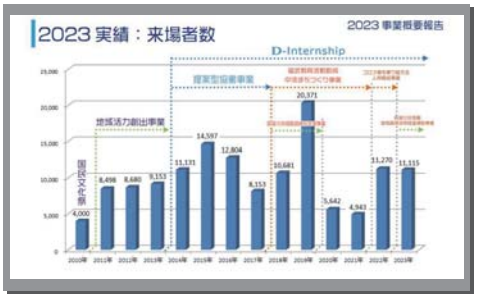
見逃せないのは、このプログラムを運営する指導スタッフにもあります。計画性・実行力はもとより、スタッフの熱意としたたかに計算された指導力、そして、学生のちょっとした変化を見逃さない配慮・注意力が伝わってきます。学生は 20 歳前後の大人であっても、ちょっとしたことで意欲の低下を起こします。気が緩みます。それをスタッフは見逃さず、何の遠慮もなく、的確に指導を入れてくれます。ベテラン社会人のすごさであり、学生にとっては、社会人になるための試練でもあります。この様なスタッフの指導で学生たちは大きな学びを経験するのです。

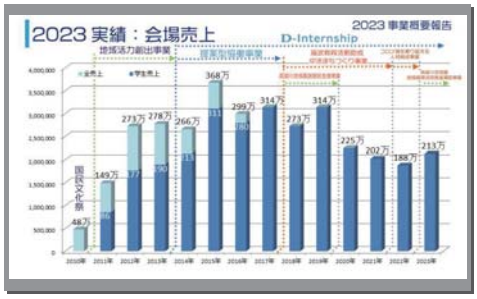
さらに、このプログラムの究極のすごさは、プログラムに参加している間は「大変だ」、「つらい、、、」と言っている学生が、修了してしばらくすると、「来年も参加してみようかな？！」とつぶやくことです。半年に渡るこのハードなインターンシップ・プログラムを学生たちは「社会人になるための実践経験である」と暗黙的に理解しています。

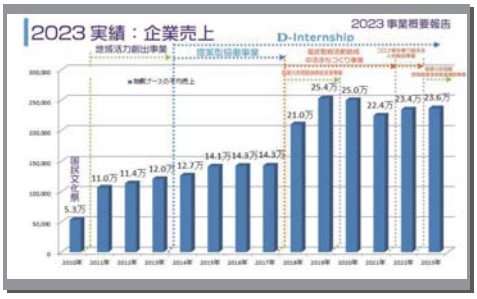
吉備国際大学 外国語学部 学部長　教授　畝（タンボ）伊智朗

Results

■14 年間の本事業の成果（2023 年事業結果報告会資料より）







多様性へ向けて、講師は全員 がユニバーサルマナー検定 3 級の取得とユニバーサルワーク研修・ＬＧＢＴ対応マナー研修を受講・修了し、本プログラムへ臨んだ。

今年は外国人留学生の参加が 39%と多かった分、国により異なる価値観の壁を実感した。研修において、テキストにある日本語の理解度により留学生には負荷がかかる場面があった。その都度、エクイティ (公平性) を持つよう配慮した。龍の仕事展の PDCA 実践では、ワンチームとして目標を達成するためにどうすればいいかを考え話し合った。結果最終日には学生同士が持てる力を補完しあいながら助け合う場が生まれた。この活動はＤＥ＆Ｉを目指した取り組みとしても価値がある。

今年の特徴は、9 日間平均の購入率が 9.7%であり、対前年の 128%と約 3 割ほど伸びている。これは今年の学生がしっかりと来場者に対応した結果、来場から購入につながったことを現わしている。学生たちが丁寧に価値を伝えた対価として売上があり、これによりブースの平均売上は昨年を上回り過去 3 番目を更新した。

企業からみた本プログラムの価値

失敗を繰り返し、自分の無力さを知り、無能を痛感する。その中から、１歩１歩改善していく。

学生に本インターンシップを提供することで、仕事に取り組む姿勢やビジネスマナー、またそれに付随して数多くの研修の機会などがあり、学生にとっては聴く力や話す（発信する）力が身に付く大変価値のある取組みです。

過去、弊社の担当となった学生に共通することは、開始時と終了時で仕事に対する顔つき、姿勢、マナーなど、信じられないくらいの成長を感じ取ることができました。おそらく弊社の担当学生だけのことではないでしょうが、最初は会社側からの要望を聞き、そのまま形にするという《受け身》の姿勢だった学生が、自らのアイディアで「ここをこう変えてみたい」とか、「お客様からこんな質問をいただいたのだがどう答えたらよいか」といった《攻め》の姿勢に変化した様が見られ、イベントが終わる頃にはもっと何かを任せたいという思いにまで至ることもありました。

このインターンシップを通して、自分の無力さを知り、自分が無能であることを痛感すると思います。ビジネスや仕事はそんなに甘いものではありません。でも、このインターンシップに参加している企業は、皆さんに「失敗できる場」を提供しています。昨日ダメだったことを今日改善する。さっきダメだったことを、いま改善する。期間中は失敗の連続ですが、ＳＮＳで「いいね！」をするとき、疑問や意見を「コメント」「ツイート」するときのような感覚から始めて良いと思います。あなたが企業と向き合った時に感じたその「いいね！」や「なぜ？」や「こうしたい！」が企業に伝わり、自分に任され、お客様を巻き込むブースに落とし込め、失敗をしながらも立派なビジネス（仕事）になると思います。最初は緊張の名刺交換から始まりますが、最後の成果発表会の時は胸を張って堂々と自分が「掴んだもの」を発信できると思います。

カモ井加工紙 株式会社 代表取締役 鴨井 尚志

自分に足りないものに自分で気づき、社会人としての準備をする。

学生も企業訪問で身につけた知識や経験をすぐにお客に直接伝えることができ、自分の理解力やコミュニケーションスキルの確認ができます。学生にとって弊社は、今まで視野に入れてなかった業種だったようですが、インターンシップに参加するしたことで興味を持って頂けました。その結果、現在弊社でアルバイトとして働いてもらいながら更に知識を深めてもらっています。

今後、社会人として働くための準備として、企業のことを少しでも知ることができる貴重なチャンスだと思います。弊社としても学生と関わりながら仕事ができる他にはない機会ですので、毎回楽しみにしています。

このプログラムに参加することで、自分の目指す職種に将来着くための、足りていないと感じる課題が出てくると思います。他ではできない経験ができるカリキュラムですので是非、挑戦してみて下さい。

ＥＤＧＥ ＯＦ ＬＩＮＥ 代表・株式会社 アイムス 代表取締役 大橋 孝英

D-Internship の講師

このプログラムは、６月末の【事前研修】に始まり、１２月初めの一般公開の【最終成果発表会】まで、約半年間のインターンシップです。

形だけの研修やインターンシップではなく、３名のプロが大学生に本物の気づきを与えるためのプログラムを用意しています。

また、大学生の皆さんに本気で関わってくれる企業の方々、そして会場に来られるお客様も、このプログラムの重要な講師と言えます。

講師：森田恵子（コミュニケーション、コーチング、口頭表現、ビジネスマナー、組織風土活性化）

・おかやまアナウンス･ラボ(株) 代表取締役 / フリーアナウンサー
・後継者の軍師® 認定コンサルタント / BCMA 認定キャリアメンター®
・一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 アンガーマネジメントファシリテーター™
・SDGs ビジネスアイデア創出コンサルタント / SDGs 大学認定カタリスト
・就実大学 表現文化学科 非常勤講師 / ノートルダム清心女子大学 日本文学科 非常勤講師 / くらしき作陽大学 非常勤講師
・（公財）倉敷天文台 理事　・第十二代おかやま着物文化人（ぴと）

講師：久保田正彦（地域戦略 / マーケティングセミナー / 販促ツール・デザイン支援）

・Design Studio Project-G 代表 / CREATIVE COLLABORATION「倉式」Movement type-KURA 代表
・龍之仕事展実行委員会 事務局長 / D-Internship 実行委員会 事務局長 / 倉敷曾原屋 あえのこと 代表
・おかやま山陽高校マイスタースクール 非常勤講師 / ノートルダム清心女子大学 非常勤講師

講師：浅越昌子（ビジネスマナー・コミュニケーション / ＰＤＣＡサイクル・プログラム）

・おかやまアナウンス･ラボ(株) コミュニケーション講師 /
・ＯＡＬ社内育成リーダー・研修講師育成コース修了 / ユニバーサルマナー検定３級 / LGBT 対応マナー・ユニバーサルワーク研修修了
・くらしき作陽大学 非常勤講師　・バルーンアーティスト：ルーシー

D-Internship

2024

太古から数知れぬ人々が
この流れによつて生き
またこの流れによつて生きた人々によつて
守られ、利用され
郷土の文化を生み、産業を育て
歴史の流れと共に人々の生命の糧となり
魂の故郷となつた

大原總一郎「高梁川流域連盟趣意書」より